

救急医療連携にかかるICT機能一覧

優先度	機能		主に入力(操作)をする機関	機能の概要	効果		課題
					医療機関	消防	
	医療機関情報共有	応需情報	病院	病院が受入可否情報を入力し、一覧表示する	他の医療機関の受入可否が分かり、転送先選定がスムーズになる	医療機関の受入可否が分かり、受入要請先の選定がスムーズになる	現状として、医療機関の応需入力率が低く、情報の信頼性が低い
	搬送実績情報共有	照会実績	救急隊	救急隊が搬送実績(照会医療機関や収容医療機関など)を入力し、一覧表示する	他の医療機関(特に三次救急)の受入状況が分かり、転送先選定がスムーズになる	医療機関の受入状況が分かり、受入要請先の選定がスムーズになる	<ul style="list-style-type: none"> ・全消防本部の参加が必要 ・「混み具合」は分かるが、医療機関がそれ以上対応できない状況かどうかまでは判断できない。
		受入実績					
	救急車位置情報	位置情報	救急隊	GPS機能を利用し、救急車の位置情報を共有する	救急車の到着見込時刻が把握できる	医療機関へ到着見込時刻を報告する必要がなくなる	
	傷病者情報共有	タブレット式	救急隊(医療機関)	救急隊が傷病者情報を入力し、医療機関と情報共有する(医療機関がさらに転帰情報の追記を行う)	<ul style="list-style-type: none"> ・救急車到着前に患者情報が把握できる ・転帰情報があった場合:搬送～転帰までのデータがとれ、事後検証に役立つ 	<ul style="list-style-type: none"> 患者情報の伝達が簡易になる。 複数の医療機関への情報伝達が容易になる 	「傷病者収容書」の見直しが必要
		デジタルペン式					
	緊急度判定支援	緊急度判定	救急隊	傷病者のバイタルサイン等を端末に入力することで、緊急度を自動判定する		自動的に緊急度が判別でき、搬送先選定の判断の参考にできる	
	情報出力	観察票出力	救急隊	上記機能で入力した搬送実績、傷病者情報をデータ出力する	救急搬送状況の事後検証に利用できる	<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料作成の事務負担の軽減につながる ・救急搬送状況の事後検証に利用できる 	
	画像・動画伝送	固定カメラ	救急隊	救急車内の患者状況を医療機関と共有する	<ul style="list-style-type: none"> ・電話よりも患者状態が容易に把握できる ・救急車到着前に患者の状況を常に視認できる ・治療にあたるスタッフ全員で状況把握ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師への情報伝達が容易になる ・処置、特定行為への助言が得易くなる 	電波不感地帯の対策が必要
		可搬カメラ		事故現場の映像や、固定カメラで対応できない傷病者の局部映像を、医療機関と共有する	救急車到着前に事故現場等の状況が把握できる		
		心電図モニター情報		心電図のデータを医療機関と共有する	救急車到着前に心電図が把握でき、急性心筋梗塞などの対応準備が事前にできる		<ul style="list-style-type: none"> ・データ出力が可能なモニターへの買い替えが必要となる場合がある ・12誘導の場合、心電図電極を多く装着する必要がある。

※「課題」については、運用経費、救急隊の業務量増以外を記載